



令和2年3月5日

立川市議会
議長 佐藤 寿宏 殿

立川市議会 環境建設委員会
委員長 瀬 順 弘

行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察月日
令和元年9月3日（火）

2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
立川市内	流域下水道編入にむけた施設整備工事

3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

環境建設委員会 流域編入視察 報告書

日時：2019年9月3日（火）12：30～13：30

調査項目：流域下水道編入にむけた施設整備工事

視察先：錦町下水道処理施設

視察者：瀬 順弘（委員長）、若木早苗（副委員長）、佐藤寿宏（議長）、木原宏、伊藤大輔、
稲橋ゆみこ、高口靖彦 7名、委員外参加（山本洋輔、大沢純一、山本みちよ、浅川修一、
福島正美）5名 議会事務局 2名

2班に分かれて、工事中の立て坑やこれから管きよの掘削を開始するシールド下水道送水施設
地下工事等を見学ののち、説明を受ける。

1. 立川市流域下水道編入事業

○立川市錦町下水道施設で処理している下水を、多摩川流域下水道北多摩二号処理区北多摩二
号水再生センター（東京都・国立市・国分寺市）で処理するための事業

○流域下水道編入にむけた施設整備工事は平成30年度～平成35年度で行われ、
錦幹線（錦町下水道～北多摩二号水再生センターまで）3.4km、下水送水施設（地下）
（錦町下水処理場への「流域管きよ」の切り替え）整備が行われる。

＜期間＞

- ・錦幹線（管きよ・シールド）平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度）
- ・下水道送水施設 平成31年度（2019年度）～平成33年度（2021年度）
- ・その後、錦幹線（管きよ・内面覆工）・下水送水施設（建築）・流入管きよ・下水送水施設（設
備）の工事を平成33年度（2021年）～予定している。

2. 工事について

○工期：2018年10月10日～2021年8月31日

○事業主：立川市

○発注者：日本下水道事業団 ○施工者：飛鳥・大豊・中村特定建設共同企業体

○目的：立川市単独処理区が多摩川流域下水道北多摩二号処理区への編入に伴い、立川市錦町
下水処理場から北多摩二号水再生センターまでの錦幹線の管きよを、泥土圧式シールド工法等で
建設する。

＜内容＞

- ①下水送水施設工…錦下水道施設内（立川市錦町5-20-25）
- ②錦幹線（泥土圧式シールド工）…一次覆工 セグメント外形φ2000mm、延長：L=3381.9m 錦下水道施設～北多摩二号水再生センターまで（国立市泉1-24-32）
- ③錦幹線（刃口推進工）…推進管径φ1650mm、延長：L=17.0m、北多摩二号水再生センター

○錦町下水処理施設は工事の間も稼働する

○下水送水施設は高さ 61.7m、幅 27.2m、深さ 13.5～14.6mの施設となる。

○工事のダンプやトラック、クレーン等は新奥多摩街道立日橋側から出入りする。

通常は 1 日あたり 30 台程度、掘削時は 70 台程度、コンクリート打設時は最大で 250 台以上（全体で 4～5 回）。

《錦幹線やシールド工法について》

○錦幹線のトンネル（縦）の深さは 21 m（最浅で 9 m）

○シールドマシンの中でトンネル（内壁）を組み立てながら進む（横方向）

○掘削した土砂と水で泥土を作り、マシン側に充満させ、圧で安定させながら進むため、地上への影響はほとんどない。

○立坑上には防音ハウスを作り騒音を軽減する。

○地層や湧水などについては、（国立市のママ下橋付近で）湧き水からトンネルまでの深さ 11 m を通る。また、崖上からトンネル上橋は 16 m となる。

○下水道施設から北多摩二号水再生センターまでの高低差により、下水が流れてゆく仕組みとなっている。

以上

